

2021年2月4日
 千代田化工建設株式会社
 IR・広報・CSR部

2021年3月期第3四半期決算説明会(電話会議)質疑応答要旨 (2021年2月2日開催)

2021年2月2日に開催致しました2021年3月期第3四半期決算説明会(電話会議)において、出席者の皆様から頂いた主なご質問と弊社の回答を以下にまとめております。

	質問	回答
1	第2四半期に続き第3四半期も新型コロナウイルス感染症拡大の影響が出ている理由は。	第2四半期は海外を中心に新型コロナウイルス感染症拡大の影響を織り込んだ。第3四半期は新型コロナウイルス感染症拡大が想定以上に長引いていることにより、国内案件にも影響が出ていることから、プロジェクトライフベースで追加コストを見込んだ。顧客とフォースマジュールの枠組みでコスト分担について協議している。
2	海外の主要大型3案件について新型コロナウイルス感染症拡大の影響なども含め現況を教えてください。	<input type="checkbox"/> タンゲーLNG 昨年、顧客との契約条件を更改後、建設工事は順調に進捗している。進捗率は約89%。 <input type="checkbox"/> テキサスエチレン 中国でモジュールを制作中。進捗率は約86%。米国向け曳航全11船の内、9船迄出航済み。今年前半にすべてのモジュールの米国向け輸送を完了予定。 <input type="checkbox"/> ゴールデンパスLNG 設計業務、建設現場で基礎工事を進めている。進捗率22%。特に設計業務について当社の海外設計拠点(インド、フィリピン)の機能が低下するなど新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けており、顧客とフォースマジュールの枠組みでスケジュール、コストの見直しを今後協議していく。
3	今後のLNG案件の見通しはどうか。	エネルギートランジションや脱炭素化が進んでいく一方で、ガスが主要なエネルギーでなくなることは暫くの間は考えにくい。短中期的にはLNGにしっかり取り組みながら、脱炭素化に向けた取り組みを強化していく。
4	水素ビジネスの将来展望はどうか。	2025年から2030年の間にスペラ水素を中心とする水素関連事業が収益に貢献することを想定しているが、世の中の動きが想定より早くなってきており、前倒しする可能性はある。
5	エネルギートランジシヨ	再生計画をスタートさせて1年半であり、再生に向けた進捗を

	質問	回答
	ン・脱炭素など業界動向や事業環境の変化が起こっているが、どう対応していくのか。	固めながら、次の方向感を考えていく。 当社は三菱石油の工務部から独立してスタートしたベンチャーのDNAを持ち続けており、事業環境が変わっていく中で、中長期の視点で積極的にチャレンジしていく。 ビジネスモデルについても成長戦略分野など EPC ランプサムに拘らない新しい仕事のやり方に少しずつ舵を切っている。
6	指名委員会、報酬委員会の設置及び社外取締役比率の更なる向上についての考え方は。	取締役会及びガバナンスの強化の一環として、社外目線の活用、ダイバーシティについては積極的に推進していく。

以上

この資料には、本資料発表時における将来に関する見通しおよび計画に基づく予測が含まれています。経済情勢の変動等に伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があり、予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。
従いまして、この業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。